

中学生の「税についての作文」

福岡国税局長賞

税が救った命

大川市立三又中学校

二年 江口 咲南

「税」それは、私達の生活には欠かせない大切なものになってきています。

私は税の役割を今後知ることがないと思っていました。しかし、ある出来事により、税を知り感謝する日が来るのです。

昨年二月十八日に私の弟が産まれました。

弟は、五百グラムというとても小さな体でした。産まれてすぐは、自分で呼吸することもできず、コードや、チューブがたくさんつけられていました。弟は、母の手のひらで、体が隠れるくらい小さかったです。私が思う赤ちゃんとは、ずっとかけ離れた姿でした。死と隣り合わせだった弟を医師や看護師さん達は二十四時間体制で治療などを行い見守ってくれていました。

超未熟児で産まれた弟は、約五ヶ月もの間病院で入院していたのです。

弟は、妊娠七ヶ月での早産のためお腹の中で体がしっかり、成長していません。どこが悪いのか、今後体に異常が出ないかなど定期的に、たくさん検査が行われていました。

その期間中の入院費、検査費そして、たくさん治療を受

け、退院までには、およそ一千万円というとても高額な費用になっていました。我が家は一般的な家庭であり、一千万円という高額な費用を払うのは困難です。

そこで、我が家を救ったのが税金です。弟は、「未熟児養育医療」といい、出生児体重が二千グラム以下の場合に使われる制度に助けられました。

そのおかげで、一千万円がすべて無償でした。

この時に初めて、税金の制度、税金の有難さを知りました。

「税金なんて、なくていい」「自分達は、使っていないから払わなくていい」と反対する人も、いると思います。ですが、本当にそうでしょうか。気づかないところで税金に助けられていることがあると思います。

では、税金がなくなると、どうなるか。救急車を呼ぶのが有料になる。医療費が全て自己負担になる。などと、あたり前のように生活している中で、私達は、たくさん税金に支えられています。

税金がなければ、私達の生活がなくなると言ってもいいと思います。税金を必要ないと考えている方も気付かない所で助けられていることを忘れないでください。

私の弟は一年半経った今、八キロ以上にまで大きく育ちました。ここまで大きくなれたのは家族だけのおかけではなく、看護師さんや医師達、そして何より、税金の力が大きいのです。私の大切な弟を救ってくれた税金は私達家族の中で、とても大きな存在です。

今回を通して、しっかり将来は納税します。

税があるから、今がある。